

# 研究員 の眼

## つみたてNISAの買付は計画的に ～2022年11月の投信動向～

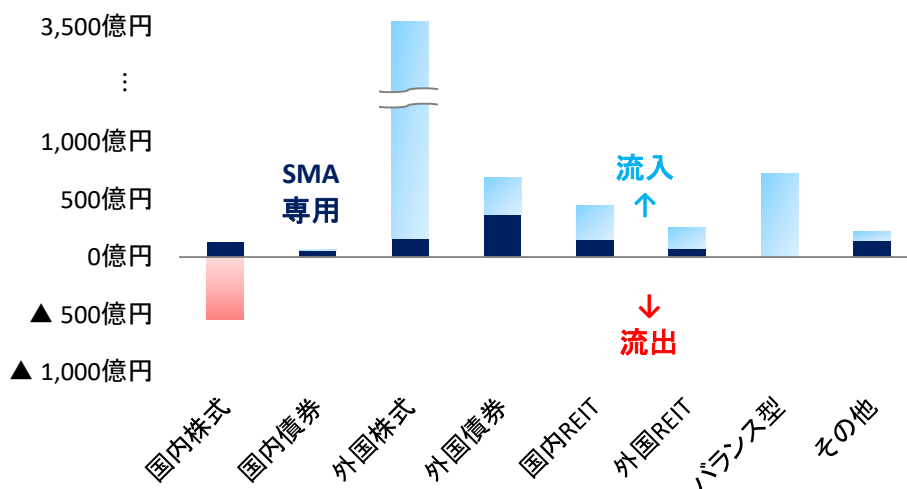
金融研究部 主任研究員 前山 裕亮  
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

### 資金流入がやや鈍化

2022年11月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流入入をみると、主として外国株式を投資対象とするものを中心に多くの資産クラスのものに資金流入があった【図表1】。ただ、国内株式ファンドで資金流出に転じたこともあり、ファンド全体で5,600億円の資金流入と10月の6,000億円からやや減少した。

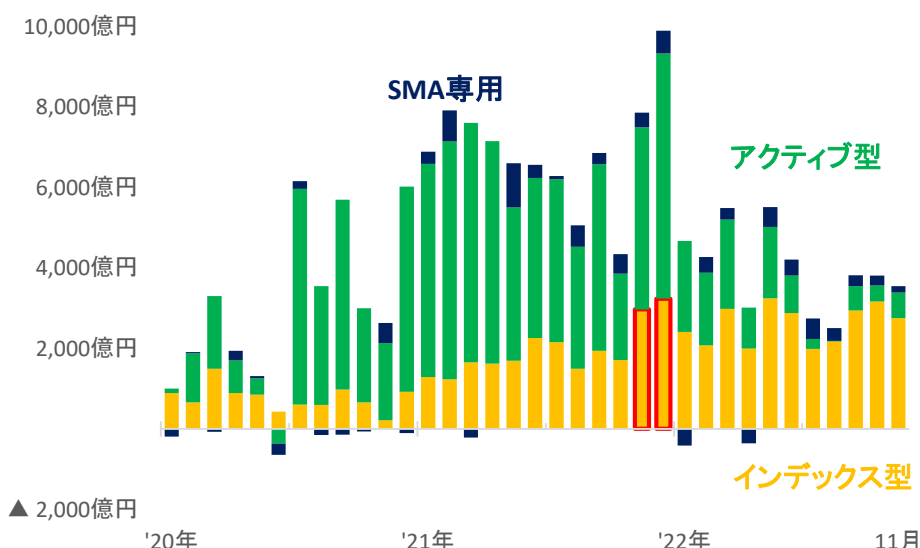
11月も投信販売を牽引したのは、やはり外国株式ファンドであった。外国株式ファンドには11月に3,500億円の資金流入があり3カ月連続で3,000億円を超えており、販売は堅調であったといえるが、10月の流入額3,800億円と比べるとやや減少した【図表2】。外国株式ファンドをタイプ別にみると、SMA専用のものには200億円と10月から同規模の資金流入があった。市販されているファンドでは、アクティブ型のものに600億円の資金流入があった。あくまでも新設ファンド（【図表3】赤太字）への資金流入で膨らんだのが大きいですが、10月の400億円から増加した。

【図表1】2022年11月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表2】 外国株式ファンドの資金流入の推移



(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用ファンドは除く。2022 年 11 月のみ推計値。

【図表3】 2022 年 11 月の推計純流入ランキング

ファンド名	運用会社	10月の推計 流入	11月の推計 純流入	純資産 11月末時点
1位 eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際投信	769 億円	653 億円	16,302 億円
2位 <b>ティール・ロウ・プライス 米国オールキャップ株式ファンド</b>	ティール・ロウ・プライス・ジャパン	---	407 億円	402 億円
3位 eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UFJ国際投信	368 億円	376 億円	7,638 億円
4位 楽天・全米株式インデックス・ファンド	楽天投信投資顧問	326 億円	252 億円	7,424 億円
5位 SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	SBIアセットマネジメント	300 億円	250 億円	7,263 億円
6位 インベスコ 世界厳選株式オープン(為替ヘッジなし)(毎月決算型)	インベスコ・アセット・マネジメント	202 億円	197 億円	2,460 億円
7位 フィデリティ・世界割安成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	フィデリティ投信	83 億円	165 億円	4,074 億円
8位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	154 億円	153 億円	17,804 億円
9位 J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	三井住友トラスト・アセットマネジメント	143 億円	140 億円	4,392 億円
10位 ダイワ・US-REIT・オープン(毎月決算型) Bコース(為替ヘッジなし)	大和アセットマネジメント	141 億円	98 億円	6,923 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC 専用ファンドは除く。

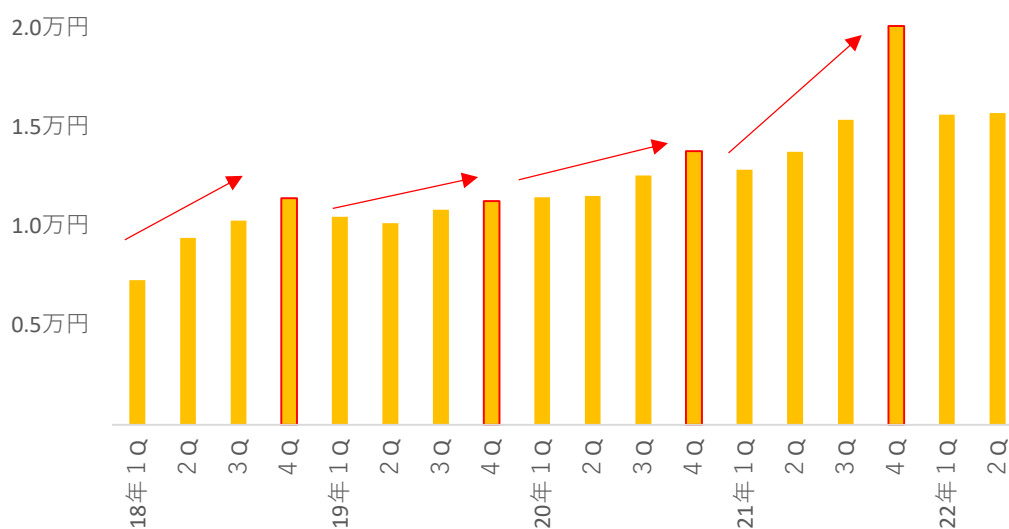
## インデックス型の外国株式ファンドには、年末に向けた駆け込みの買いもあった？

その一方でインデックス型の外国株式ファンドは11月に2,800億円の資金流入と10月の3,200億円からやや減少したものの高水準であった。そもそも10月は前半に米国株式の下落を受けて資金流入が底上げされていたのにもかかわらず、11月は10月からあまり鈍化しなかった。

インデックス型の外国株式ファンドへの資金流入が、11月も高水準であった要因として2つのことが考えられる。まず、円高の進行である。11月は世界的に株式が上昇したが、その一方で為替市場では月初に1ドル148円台であったのが月末には139円になるなど、円高が急速に進行した。それに伴って、為替ヘッジしていない外国株式ファンドの基準価額は下落したため、これまで円安を嫌気して購入を控えていた投資家などから、円高を機に積極的な買いが入った可能性がある。

それに加えて、11月は年末に向けて駆け込み買付が発生することも、2つ目の要因としてあげられる。実際に2021年11月、12月(赤囲い)はインデックス型の外国株式ファンドへの資金流入が膨らんだ【図表2】。つみたてNISAの1口座あたりの平均買付額をみても、毎年、10-12月の第4四半期に買付が増える傾向があり、特に2021年は急増した【図表4】。つみたてNISAは年間40万円の買付枠を翌年以降に繰り越すことができない。しかも年途中に始める人も多いため、買付枠をできる限り使い切ろうと年末に買い増しする人が多く、この11月も買い増しする人がいた可能性が高い。

【図表4】 つみたてNISAの1口座あたりの平均買付額(月次換算)



(資料) 金融庁資料より作成。(四半期の買付額÷四半期末の口座数)/3で算出。

### 積立投資家の増加は2022年に鈍化

インデックス型の外国株式ファンドへの流入額は概ね2,000億円を上回っているが、その一方で流入が多かった5月、10月でも3,200億円程度と2021年12月と同規模であった。つまり、2020年後半あたりから資金流入が急増してきたが、2022年に入ってから増加自体は一服してきている。このことから2021年までに積立投資を始めて2022年も続けている人が多いが、2022年に新たに積立投資を始める人自体は減ってきている可能性が高そうである。つみたてNISAの口座の増加数をみても2022年4-6月に制度開始以降で初めて前年同期を下回り、口座数の増加に鈍化の兆しがみられる<sup>1</sup>。

11月末に決定された「資産所得倍増プラン」では、目標として「5年間でNISA総口座数(一般・つみたて)を現在の1,700万口座から3,400万口座に倍増」が掲げられた。具体的な数値目標が掲げられたこと自体に大変意義のあることであり、実際に目標が達成できるかどうかは置いておいて、ぜひとも投資促進する政策を実現して、個人投資家のすそ野を広げて欲しい。ただ、2022年に入って資金流入の増加が一服しているインデックス型の外国株式ファンドの資金流入の推移をみても、やはり目標達成は簡単ではないといえる。特に関心が高い人ほど既にNISA制度を利用していることを踏まえ、今まで投資に関心が低かった人に訴求することが、今まで以上に求められるだろう。

### 一部で外国債券を見直す動き？

また、国内株式ファンドは11月に400億円の資金流出に転じた。11月は株価が上昇する中、インデックス型を中心に利益確定売りが膨らんだ。特に日経平均株価が2万8,000円を超えた翌営業日の14日の資金流出が大きく、2万8,000円という水準が意識されていたことがうかがえる。

その一方で外国債券ファンドには11月に700億円の資金流入があり、10月の100億円の資金流出から転じた。あくまでもSMA専用ファンドの影響が大きかったが、SMA専用を除外しても11月は

<sup>1</sup> 詳しくは「[数値目標は気にせず投資促進を～どうなる資産所得倍増プラン～](#)」ご参照。

300 億円の資金流入と 10 月の 50 億円から増加した。一部では外国債券投資が見直される動きがあるのかもしれない。

## 中国関連株ファンドが好調

11 月に高パフォーマンスであったファンドをみると、中国でゼロ・コロナ政策の見直し期待が高まり株価が特に上昇したため、その恩恵を受けた中国関連株ファンド（赤太字）が総じて好調であった【図表 5】。

【図表 5】 2022 年 11 月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社	11月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 11月末時点
1位	<b>チャイナ オープン</b>	野村アセットマネジメント	24.9 %	-34.6 %	25 億円
2位	<b>UBS中国新時代株式ファンド(年1回決算型)</b>	UBSアセット・マネジメント	19.2 %	-12.8 %	192 億円
3位	<b>UBS中国新時代株式ファンド(年2回決算型)</b>	UBSアセット・マネジメント	19.1 %	-12.7 %	51 億円
4位	トルコ株式オープン	SOMPOアセットマネジメント	17.6 %	102.1 %	49 億円
5位	<b>アムンディ・グラン・チャイナ・ファンド</b>	アムンディ・ジャパン	16.7 %	-18.0 %	35 億円
6位	<b>DIAM中国関連株オープン</b>	アセットマネジメントOne	16.1 %	-23.3 %	22 億円
7位	<b>三菱UFJ チャイナオープン</b>	三菱UFJ国際投信	15.5 %	-20.3 %	58 億円
8位	<b>香港ハンセン指数ファンド</b>	三井住友DSアセットマネジメント	15.4 %	-4.8 %	15 億円
9位	オーロラII(トルコ投資ファンド)	野村アセットマネジメント	15.3 %	96.5 %	13 億円
10位	<b>UBS中国株式ファンド</b>	UBSアセット・マネジメント	14.5 %	-11.2 %	81 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2022 年 11 月末残高が 10 億円以上の ETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したのですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。